

【 特色あるフロンティアスクールの取り組み事例】

都道府県番号	33
都道府県名	岡山県

()

学校の概要 (平成 14 年 4 月現在)

岡山県総社市立総社小学校									
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	3	4	4	1	23	38
児童数	135	117	124	112	130	117	4	739	

研究の概要

() 研究テーマ

わかる喜びを感じ自信をもって学ぼうとする子の育成
～ 個に応じたきめ細かな指導を通して～

() 内容と方法

(1) 実施学年・教科 全学年・算数

(2) 仮説

学習過程の中で、個に応じたきめ細かな指導をすることにより、「わかる喜びを感じ、自信をもって学ぼうとする子」が育つのではないか。

(3) 研究内容・方法

ア 評価規準を元に児童の実態にあった単元構成や学習過程を組む。

イ ティームティーチング指導・少人数指導・教科担当制指導など、児童の理解度に対応した個を豊かに伸ばす学習指導を工夫する。

ウ 一人一人の身に付けている学力を把握し、指導に生かすための評価規準と評価方法を研究する。

エ 学習を側面的に支えるドリル学習を定着させる。

教科担当制学習の取り組み

() ねらい

(1) 教員間の緊密な情報交換や連携により、開かれた学級づくりを進めるとともに、多面的な児童理解を可能にし、児童一人一人の個性の伸長を図る。

(2) 専門性を生かした教科指導によって、児童自らが進んで学習に取り組む姿を追求し、個に応じた学習の在り方について研究を深める。

(3) 中学校の教科担任制への、よりスムーズな接続をめざす。

() 導入に当たっての準備

(1) 担当教科・単元を決定し、教材研究の時間を確保した。

国語「わらぐつの中の神様」(A 教諭) 10h・社会「日本の工業の特色」(B 教諭) 11h
理科「てこのはたらき」(C 教諭) 12h ・算数「面積」(D 教諭) 12h

(2) 指導に当たって、次のことを共通理解した。

- ・児童の実態・学習内容に合った授業展開を工夫すること
- ・評価規準(基準)をもって授業に臨むこと
- ・座席表を活用しながら個に応じた指導に心がけること

(3) 時間割を再編成した。

1ヶ月間の特別限定版を作成。作成にあたっては、1週間に16時間(4時間×4クラス)程度を限度とした。

() 指導の実際

11月1日から26日までの15授業日を研究対象期間とした。児童の適応力は高く、どの教科にも意欲的に取り組めた。各教科の指導の工夫については以下の通り。

国語・・・ワークシートの工夫・活用

社会・・・ワークシートの活用・資料を読み取らせる時間の確保・自己評価活動

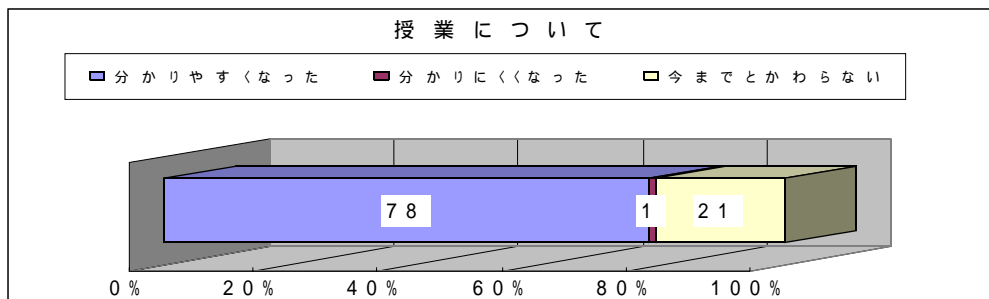
理科・・・実験時間の確保・自己評価活動

算数・・・ヒントカードの活用、グループで問題を解決する活動、自己評価活動

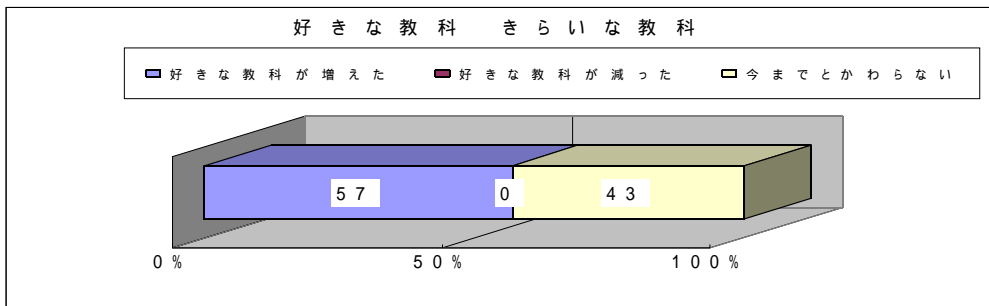
取り組みの結果(アンケート結果より)

Q1 授業について

5年生 129名(無記名回答)



Q2 好きな教科やきれいな教科について



Q3 教科担当制になってよかったと思うこと

- ・いろいろおもしろい先生に出会えてよかった。・・・(102人) 79%
- ・いろいろな先生と話ができて楽しく勉強できた。・・・(101人) 78%
- ・勉強が分かりやすくなって、おもしろくなってきた。・・・(99人) 77%
- ・他のクラスの先生とも仲良くなれた。・・・(76人) 59%
- ・学校が楽しくなってきた。・・・(75人) 58%
- ・他の先生のよいところが見つかった。・・・(70人) 54%
- ・勉強が分かりやすくなって、自信がついてきた。・・・(60人) 47%
- ・困ったとき、担任の先生以外にも相談できた。・・・(26人) 20%
- ・他のクラスの友達が増えた。・・・(19人) 15%

Q4 教科担当制になってよくないと思うこと

- ・担任の先生との会話がへる、会えない。
- ・発表しにくかった。
- ・ちょっとだけあわただしかった。
- ・テストが一度にたくさん入ってくる。
- ・担任の先生が出張でも自習の時間が少ない。
- ・分からないことなど聞きにくくなった。
- ・いろいろな先生が入れ代わり入って来られるので、はじめがつきにかった。

保護者の声（抜粋）

肯定的な意見

- ・新鮮で気分転換ができていようだ。先生にとってもメリットがあるのではないか。
- ・子どもが「よく分かるようになった」「おもしろかった」と言っているので続けてほしい。
- ・中学校で不適應をおこす子どもがいると聞く。準備として慣れておくのは良いことだと思う。

消極的な意見

- ・担任の先生ではないので話しかけづらいようだ。

成果と課題

() 成果

多面的な児童理解が進み、他のクラスの児童との会話が増えた。また、生活指導面でも効果的であったと考える。そして、担任全員で130名の児童を育てるという意識がもてるようになってきた。

それぞれの授業で、質の高い授業が可能になり、児童の学習意欲の向上につながった。また学校が楽しくなった児童や自信をもって活動する児童が増えてきた。

個に応じた指導が行いやすくなり、支援の在り方について教師自身が勉強するよい機会になった。

() 課題

担任と触れ合う機会がどうしても少なくなるため、児童によっては「先生に聞きたいこと」「相談したいこと」などをそのままにしてしまうことがある。

1ヶ月間ほぼ予定通り指導実践できた。しかし、短期間の特別時間割ではなく、期間も長くなれば、進度の差が生じ、時間割を常に操作し日程調整する必要が出てくると思われる。

今後の取り組みについて

今後は、期間・教科・規模・担当者などの観点について検討して実施する事が大切であると考えられる。

「期間」・・・1ヶ月、1学期、1年、5・6月、10・11月など

「教科」・・・国語、社会、理科、算数

(音楽、家庭、図工、体育)

教科担当生に適していると思われる教科

担任が担当した方がよいと思われる教科

「規模」・・・学年内(4クラス)、2クラス交換授業のような形態

「担当者」・・・希望制、自分の専門分野制など。加配教員が1名入ると心強い。

教科担当制とT・T、少人数指導を組み合わせる方法も考えられる。